

(熊本県立菊池高等) 学校 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標

教育方針 「道徳性の陶冶、真理の探究、心身の錬磨」

《育てたい生徒像》

- ① 豊かな人間性と正しい人生観・世界観を備えた生徒
- ② 勉学への意欲と困難に屈せず人生を生き抜く力を身に付けた生徒
- ③ 強健な身体と強固な意志を持った生徒

2 本年度の重点目標

- ① 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実
- ② キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実
- ③ 道徳教育の充実と命を大切にする心の育成
- ④ 国際・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人の自覚の醸成
- ⑤ 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実
- ⑥ 安全で安心できる学びの場となる環境づくりの推進
- ⑦ 地域に開かれた信頼される学校づくり

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	特色ある 学校づく り	地域を柱に社 会に貢献でき る人材の育成	○探究学習の 充実	○探究学主任を設 置し、菊池市の高 校魅力化コーデ ィネーターと連携し て、探究学習の計 画立案、円滑な実 施を図る。	B	○コーディネーターと 連携を図り、2年地域 探究コースでは新たに 福祉分野の探究班を設 け、計8件の地域課題 に取り組んだ。3年地 域探究コースでは個人 探究だけでなく、学校 や地域の案内パンフレ ットづくりに取り組ん だ。最終的には普通科 1・2年生合同で探究 活動成果発表会を外部 に公開する形で実施で きた。 ○次年度、この探究活 動にDXの要素をどの ように組み込んでいく かが課題である。
			○個に応じた 指導の充実	○授業や家庭学習 において、ICTを 活用し、個別学習 を取り入れる。 ○二者面談、三者 面談を実施する。	B	○職員のICT技能も高 まり、授業における活 用も増えてきた。今後 は生徒の能力や関心 に応じた個別課題を使用 するなど、さらに活用 を進めていきたい。 ○三学期は二者面談の 時間を確保できなかった が、面談期間の設定 と周知は行った。

				○菊池市公営「前進塾」と連携し、個別学習のサポートを図る。		○前進塾ディレクターと連携を深め、前進塾の活用に努めたが、利用状況の改善とまでには至らなかった。
	地域の小中学校との連携	○小学校に対する啓発 <				

			○新型コロナウイルス感染症を含む学校感染症防止対策の徹底	○感染防止意識の向上と安心安全な環境整備を行う。 ○生徒・職員の健康状態の把握と感染症発生時の迅速な対応を行う。		○体調不良時のマスクの着用や咳に対するエチケット等、感染対策に対する意識は継続されており、行事の際にも指導を行うことができた。 ○担任の協力で毎日の健康観察の実施が定着している。流行期の状況把握や学級閉鎖の判断に活用しており、今後も継続していきたい。
開かれた学校づくり	公開授業の推進	○公開授業を年に2回以上設定		○保護者・地域への公開授業の周知を行う。	C	○形骸化が進んでいるので、各教科持ち回りでの研究授業などを検討したい。
	広報活動の推進	○学校HPや広報誌「きくち」への掲載充実		○学校HPの迅速な掲載 ○菊池市と連携を図り、市の広報誌へ記事を掲載する。	B	○行事予定表の迅速な掲載や学校HPにおける各種情報提供など必要に応じて掲載することができた。 ○菊池市広報誌への定期的な記事の掲載によって学校の魅力化を発信することができた。 ○熊本県教育委員会HPの「フォトニュース」への記事掲載については、掲載予定である。
			○熊本県教育委員会HPへの記事掲載	○熊本県教育委員会HP「フォトニュース」へ学校の取組の記事を掲載し、学校の魅力を伝える。 ○学校説明会などの情報発信のリーフレット作成や説明会で説明に使用するパンフレットを充実させる。		○菊高ジャックの取組や探究活動の取組など生徒たちの様子や活動について学校説明会のスライドやパンフレットへの掲載などリアルタイムに近い状況で掲載および発信することができた。
	育友会との連携	○育友会総会・各種委員会の充実		○各行事等において育友会役員との積極的な連携を図りながら取り組む。	A	○総務厚生、広報、育友会林活動など学校行事が錯綜するなかでも適宜対応することができた。課題としては学校行事の精選、一部の保護者への過重負担、各種委員会の時間帯などが挙げられる。

	業務改善 と働き方 改革	勤務環境等の 整備	○校務分掌の 見直しと職員 間の連携強化 ○部活動休養 日の徹底 ○定時退勤日 の実施 ○年休等の取 りやすい雰囲気 づくり ○時差出勤の 導入	○校長面談等によ る意見交換を通し て適宜改善を図 る。 ○業務を集約、整 理して業務を適正 かつ効率化する。 ○月ごとの活動計 画を提出する。 ○定時退勤日の週 における呼びかけ の実施と会議等の 精選 ○年休 12 日以上 取得者の増加を図 る。 ○時差出勤の導入 により、働き方改 革を推進する。	B	○職員から話を聴き、 今後も適宜対応してい く。 ○県教育委員会の業務 改善・働き方改革推進 モデル校となり、委託 業者からの助言や研修 等の効果もあり、昨年 度よりも職員の時間外 勤務時間の縮減につな がった。ただ、一部の 職員への業務集中の傾 向は改善されておら ず、負担感軽減も含 め、更なる対応が必要 である。 ○月毎の活動計画・活 動報告の提出を徹底し て状況を把握し、休養 日の徹底を行いたい。 ○定時退勤日の呼びか けは不十分であった。 次年度は、部活動の休 養日や取得環境面の整 備も含め、積極的に取 り組んでいきたい。 ○年休取得については、 本採職員の平均取得日 数は 15.4 日、15 日以 上の取得者は 42.9% であった。今後も年休 を取得しやすい職場環 境を整えていきたい。 ○時差出勤については のべ 7 名の職員が制度 を利用し、働き方改革 の一助となった。
学力 向上	教科指導 力向上	授業方法の改 善	○新しい学習 評価を生かし た授業づくり ○評価方法の 研究	○生徒に授業アン ケートを実施す る。 ○公開授業を実施 する。 ○評価方法につい て各教科で検討し たものを全教科で 共有し改良してい く。 ○学期成績や評定 のチェック体制を 整える。	B	○授業アンケートのフ ィードバックを職員に 行い、授業の改善につ なげていきたい。 ○各教科におけるルー ブリックの作成と、生 徒への周知を進めてい きたい。 ○観点別評価の成績算 出シートを作成したた め、成績のミスは大き く減らすことができ た。

			○ICT 機器の活用 (学習者用端末の活用)	○生徒の1人1台端末を活用し、パフォーマンス活動の場を増やすことで、主体的・対話的で深い学びの授業を実践する。 ○学習者用端末を家庭へ持ち帰り、家庭学習の教材・教具としての活用を行う。(基礎学力の定着と連携) ○GoogleClassroom を積極的に活用する。		○1人1台端末を活用し、学習活動の充実を目指し、今後も工夫を重ねていく。 ○端末を家庭に持ち帰ることについては、管理業務の増加による担任の負担増が懸念される。 ○教材の提供、家庭学習の指示、課題の配布など、GoogleClassroom の活用について今後も積極的な活用に取り組みたい。
		基礎学力の定着	○家庭学習時間の確保と充実	○家庭学習時間の調査を年2回行う。 ○家庭学習(週末課題)を課し習慣づける。	B	○生徒の家庭学習はほとんどできていないので、習慣づける方を考えていきたい。家庭学習調査も職員間で共有し学習を促したい。
	読書習慣の確立	読書活動の推進	○朝読書の完全実施 ○計画的な図書館利活用	○定期考査期間以外は朝読書を実施する。 ○探究学習や特別活動などで図書館の利用を促進する。	C	○朝読書の実施について、担任の先生方にも協力をお願いして活動を推進していきたい。 ○図書館職員研修を授業等での活用促進につなげたい。
	キャリア教育(進路指導)	進路保障	進路体制の再構築	○進路研究の充実 ○未来探究コースの育成計画の立案(国公立大学希望者2名合格)	A	○今年度は県立大学と熊本大学への学校訪問を実施した。 ○指導は教科横断型で実施できた。(年内入試において熊本県立大学2名合格) ○商業科から国公立大学の推薦入試に挑戦することができたが、十分な対策ができなかった。(2年次からの仕掛けが必要、英検・日商簿記) ○未来探究コースの生徒に対して他校との合同学習会に参加できた。(11名参加)

			○学力向上企画委員会を軸とした、生徒一人一人の学習段階に応じた指導体制および国公立大学入試に向けた指導体制の構築	○菊池市公営「前進塾」と連携し、学年に応じた進路講演会および特別講座を実施する。		○前進塾と連携した講座は継続できたが、利用者の増加において課題が残っている。 ○春と秋に前進塾主催の英数講習会（講師は壺溪塾より派遣）を実施した。 ○大学生講師と塾生の懇親会を4月に実施した。 ○学力向上企画委員会の日程調整が難しく、あまり機能しなかった。
	キャリア教育の推進	進路に対する意欲の高揚と職業観の育成	○進路ガイダンスの実施 ○探究学委員会と連携したインターンシップの実施 ○就職指導の充実と企業就職希望者全員合格	○進路指導部と外部業者が連携した講話を実施する。 ○業者の実施する上級学校説明会および企業ガイダンスに積極的に参加する。 ○インターンシップでは生徒の進路希望に添った事業所で実施し、事前・事後指導を複数回実施する。 ○探究学委員会と連携して、先進校の視察やセミナーなどに参加し、そのノウハウを得る。 ○キャリアサポーターによる就職面接を3学年は1学期、2学年は3学期に実施する。	B	○外部事業者との連携が難しくなったが、進路講演会等は実施できた。 ○ガイダンス参加については3年生で2回、1、2年生で6回実施できている。（任意参加を含む） ○インターンシップを2学年全員に対して実施できた。一方でその計画性や事前事後の指導において課題が残った。 ○探究学委員会との連携はできた。先進校視察も3校実施できた。セミナー等の参加は一部の職員による限定的なものになった。 ○キャリアサポーターによる面談は予定通り実施できた。次年度以降も効果的に活用し、さらに就職指導を充実させたい。
生徒指導	生徒指導の徹底	基本的生活習慣の確立	○段階指導の実施 ○挨拶の励行 ○遅刻の減少 ○私物管理の徹底	○整容面、生活面等の指導を段階的に指導する。 ○毎朝、正門で指導する。	B	○整容検査後の再検査を徹底した。しかしながら、日常の検査が不足していた。 ○指導票の累積により段階的に指導した。ただ、票の発行に偏りがある。 ○朝の登校指導は挨拶励行や、整容・遅刻者指導につながった。

				○生徒会のあいさつ運動を実施する。 ○組織的に取り組む。		○生徒会の参加が少なかったのは、今後の課題である。 ○生徒指導部を中心に各学年の副担任に協力を得ながら指導を行った。
	安全教育の徹底	交通ルールへの遵守と安全意識の高揚	○社会のルールや規則等を遵守する指導の実施 ○防犯意識を高める取組の実施	○登校指導 ○原付講習会 ○自転車点検 ○ヘルメット着用の推進	B	○原付講習会、自転車安全講習会・自転車点検、朝の登校指導等を実施し、交通ルールやマナーアップを図ったが、原付の事故やマナー違反が数件あった。ヘルメット着用についても、外部資源を活用し、啓発を行った。
	特別活動の推進	生徒会活動の充実	○生徒主体の運営	○生徒会活動を充実させ、学校行事の充実と改善を行う。	B	○クラスマッチや菊翔祭の企画・運営等を自主的に行う場面が増えている。
		部活動の推進	○部活動加入生徒の増加と実績の向上	○活動環境の整備と学校全体としての取組を強化する。 ○部活動推進委員会を年2回実施し、委員からの意見や要望を部活動の活性化につなげる。	B	○例年年末の時期に「城山の日」に参加している。本年度は日程は未定とのことであった。日程が決まり次第、部活動生が中心となり積極的に参加したいと考える。
人権教育の推進	確かな人権感覚と人権意識の向上	共通理解と意識の高揚	○隔週1回の推進委員会の実施 ○各種研修会への積極的な参加	○年3回程度の職員研修を実施する。 ○年1回以上の職員の各種研修会への参加を促す。 ○学期ごとに人権教育便りを発行する。	A	○人権同和教育課主事による人権に関する法令や施策・第三次とりまとめの理論と実践、また水俣病語り部の方からの講演をいただいた。 ○年1回の研修参加が原則であったが、それ以上に自主的に参加いただいた。また菊池市人権同和教育大会においてレポート発表を行った。

教育相談	相談活動の充実教育	○支援体制の確立と共通理解 ○支援を要する生徒・保護者への相談体制の整備	○SC、SSW 及び関係機関と連携した生徒支援を充実させる。 ○生徒支援委員会を週1回開催して共通理解を図り、支援の方向性と役割分担を明確化する。 ○生徒理解研修を学期に1回実施し、全職員の共通理解を図る。	A	○生徒の指導の一環としてのSC・SSW面談が効果的であった。生徒・保護者に寄り添った関わりを持つことができた。SSWには受診同行などの継続的な関わりもしていただいている。相談前後にSC・SSWと担任との情報共有の時間を確保することは課題である。 ○生徒支援委員会は週1回開催することができた。生徒情報共有および昨年課題であった支援のための役割分担や具体的支援検討についても共有することができたが、やはり学年主任が入るとよりスピーディーな対応に繋がるため、委員構成の見直しが必要である。 ○生徒理解のための研修を3回実施した。R5年度に行ったように2学期末に教務（出席・成績不振関係）と併せた研修ができると良いと思う。
他者への思いやりを育む指導	生命の尊厳並びに、思いやりの心の育成	○多様性を尊重し他者への思いやりを持たせる指導 ○講演会等を通しての啓発活動の推進	○デートDVを中心に人とかかわり方や言葉の使い方について指導する。 ○実態の共有と健康教育について外部機関と連携した指導を実施する。 ○職員による講話を学期に1回実施する。	B	○昨年の課題であったデートDV問題について、講師と十分な打ち合わせや配慮を行い、保健講話で取り扱うことができた。次年度の性教育（男女交際）については必須の課題であると思う。 ○自他尊重や思いやりへの教育としては、いじめ防止の集会において生徒指導主事やスクールカウンセラー、保健主事による講話の中にも含めて指導することができた。各学年集会で学年主任からも言葉遣いの指導等も行っていただいた。他者尊重の指導を行った。 ○1年生へは宿泊研修で、SCによるSOSの出し方の教育を行った。

いじめの防止等	いじめの未然防止 いじめの把握	いじめの減少	○いじめを生まない環境の醸成と、人権に配慮した被害生徒、加害生徒への対応・指導	○人権教育と連携し講話や全校集会等を実施する。 ○1学期始めに、いじめ防止のための全校集会を実施する。 ○クラス活動を通して、コミュニケーション能力を高める教育を実施する。 ○職員研修を実施する。	B	○予防的対応として、4月に情報集約担当がいじめ未然防止のための全校集会（SST：バーサデーチェーン）を実施した。 ○いじめの把握については、主に保護者による情報提供や心のアンケートによるものが多く、その後すぐに小委員会などの関係者で情報共有することができた。 ○SSTの実施（1年3回、2年2回、3年1回） ○情報集約担当やスクールロイヤーによる職員研修を実施した。
		いじめが疑われる事案の把握の増加	○事案の把握	○二者面談を学期に1回実施する。 ○いじめ防止アンケートを各学期1回実施し、気になる生徒には速やかに面談を行う。 ○生徒の状況を把握するための生徒支援委員会を毎週1回開催する。 ○「いじめ防止対策委員会」を各学期1回開催する。	B	○各学期初めの個人面談旬間や保健室対応生徒の面談、学期毎の心のアンケートによりいじめの疑いについても把握した。 ○生徒支援委員会や小委員会などの関係職員での情報共有や解決に向けての役割分担をすることができた。また、各学期のいじめ防止対策委員会にすべての事案を挙げて委員で協議を行った。
	いじめに対する措置	速やかな事実確認といじめ解消に向けた取り組みの実施	○職員の組織的な対応 ○いじめ解消に向けた計画的な対応	○関係職員で聴き取りを速やかに実施する。 ○いじめ事案の認知を積極的に行う。 ○SC・SSW等の活用を積極的に行う。 ○対応マニュアルの点検を行い活用しやすいように改善する。	A	○いじめ対応マニュアルに沿って小委員会を繰り返し行うなど対応を進めた。被害・加害双方の聴き取りについても関係職員が複数で実施したが、同じ職員が両者の聴き取りを行うことは課題であり、生徒指導部との連携は不可欠である。 ○SC・SSWへも情報共有し、必要時には会議に入ってもらい助言をいただいた。

		人権に配慮した被害生徒・加害生徒への対応・指導	○被害生徒を守るとともに加害生徒への適切な対応 ○両者に対し寄り添いながら、継続した見守りと関係改善に向けた対応	○加害生徒及び関係した生徒の指導を適切に行う。 ○保護者との連携を円滑に行うとともに人権に配慮した対応を行う。	A	○被害生徒の側に寄り添った対応を心掛けながらも、加害側とされる生徒の心情や言動にも注視した対応を行うよう心掛けた。また、定期面談等を通して継続的な指導を行った。 ○いじめ解消に至るまでの生徒間の見守りについては全職員に周知し、担任に面談確認を依頼している。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	総合型コミュニティ・スクールの充実	地域や関係機関との連携	○行政機関や地域との連携強化	○学校運営協議会を通じて本校の課題と改善策を見いだす。	A	○学期に1回学校運営協議会を開催し、本校の実情の確認と課題について協議を行った。課題解決に向けた提言等もいただいた。
		防災教育の充実	○生徒と職員の防災・減災に対する意識の向上とそれに関する基本的な知識の獲得	○防災訓練を実施する。	B	○地震・火災時の避難訓練を実施することができた。生徒への周知ももちろんだが、職員の防災への意識を高めるための周知に課題が残った。次年度は、職員向けの研修の企画を考えたい。
				○防災啓発の掲示物を作成する。		○防災啓発の掲示物については、作成できなかった。次年度は、教科と連携することを考えたい。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○ボランティア活動の活性化	○生徒会主催の清掃ボランティアを復活させ実施する。	A	○生徒会主催による清掃ボランティアを実施することができた。市民広場や御所通りの清掃活動も実施できた。
				○市や地域と連携を図る。		○生徒会が主となって地域で開催される多くのボランティアに参加した。

				○ペットボトルキャップ寄付、育友会林の維持管理活動を充実させる。 ○ボランティアの窓口となる職員を明確にする。		○ペットボトルキャップ集め運動を実施した。 ○1年生が育友会林作業に参加し、体験学習の中で環境の整備保全に触れ、環境意識を高めることもできた。 ○生徒会担当の職員がボランティアの窓口となった。
	学校理解	学校理解に向けた活動の推進	○本校から地域への協力と本校学校行事への協力要請 ○学校行事への育友会協力のための連携充実	○地域から要請される清掃活動等へ積極的に協力する。 ○育友会広報誌「大椋」での学校行事紹介や活動報告の充実を図る。 ○育友会「一人一役運動」の活性化させる。 ○育友会関連行事への保護者参加の増加を図るため、役員会を充実させる。	A	○各学期、広報委員会の活動が充実し、計画的に育友会広報誌「大椋」を発行することができたが、保護者・職員の一部の負担増加が課題である。 ○早めの情報提供、出欠の集約など組織的に対応することができたが、一人一役で一度も参加されない保護者への呼びかけ等が継続課題である。

4 学校関係者評価

- ・アンケートでほとんどが向上している。学校の教育活動に満足している生徒、保護者が多い。日頃の先生方のご指導に感謝したい。できるならば、向上した理由も確かめて次につなげて欲しい。
- ・全体的に前年度と比べて満足度が向上しているのは、素晴らしいと思う。
- ・先生方の取り組みと生徒の努力が良く分かった。「入学してよかった」という満足度の高さは、素晴らしいと思う。個人的には「書く力」の低下が気になっている。表現、書くことに力を入れて頂くということなので、是非お願いしたい。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどへの相談体制ができているという評価が高いのはとても良いと思う。相談できる場所があるというのは、安心して学校生活が送れる事なので、心身の安定につながると思う。
- ・学校の事を家庭で話す事が低いのが、やはり気になる。これは学校だけでは難しいですが・・・
- ・アンケート調査を今後活かすかに期待したい。育友会との連携も大事にされ、本協議会会長の発言にもあった小、中との繋がりを定期的にやるのが大事だと感じた。
- ・生徒、先生、保護者、共に満足度は高いようなので、委員としては安心した。先生方お世話になりました。
- ・菊池高校の未来は、探究コースにあるのではないかと、生徒もよく頑張っている様子がうかがえる。地元に戻ってくれる生徒を育てて欲しい。
- ・学校評価アンケートでは、生徒、先生のR5、R6において、2年生の生徒の評価が全く違って感じていることに関心を持った。
- ・様々な成果が出ており、素晴らしいと思う。すぐに成果が出るものと、しばらく時間がかかることがあると思う。先生方、生徒の皆さんに負荷がかかり過ぎないように、続けられるように制度設計していただく。
- ・生徒及び保護者の本校への帰属意識の高さに安心させられた。それは、生徒を教育する先生方の深い思いがあってのことだと思う。

5 総合評価

- ・普通科の学科改編の3年目として、菊池市との連携し、探究学習のさらなる充実を図ることができた。特に、「総合的な探究の時間」や学校設定教科「地域」においては、菊池市高校魅力化コーディネーターを活用し、菊池市役所や関係機関、熊本大学と連携した取組を行い、地域課題解決に向けた探究的な学習を深めることができた。様々な取組や活動により、生徒自身の探究学習への肯定的評価にもつながるとともに、1、2年生の普通科で「探究成果発表会」を実施し、来賓や来場者からの高評価を得たことで生徒の自信につながった。
- ・商業科においては、課題研究におけるイベント「菊高ジャック」も4年目となり、地域課題解決に向けて生徒が主体的に取り組んでいた。今年度においては、地域のイベントや荒天の影響を受け、来場者数が伸び悩み、課題が残る形となった。今年度の反省を次年度の取組に活かしたい。
- ・学力向上の取組については、新学習指導要領の趣旨に沿った授業とICTを活用した授業を柱に、授業改善に取り組んだ。評価方法については、全教科で共有して改良を図ることで、生徒の学習に対する意識改善につなげた。次年度は、公開授業の機会を活用して授業研究を行い、授業改善につなげたい。また、菊池市公営塾「前進塾」と連携し、個別学習のサポートや大学入試対策講座を実施することによって、生徒の学力向上につなげることができた。
- ・進路指導に関しては、進路ガイダンスの実施や大学・企業訪問などを実施し、多岐にわたる本校生徒の進路希望に応じた指導や支援を行って、進路意識を高めることができた。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談体制を充実させ、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整えることができた。
- ・本校は、地域から期待されている一方、菊池市内の中学生にとっては魅力的とは言えず、菊池市内の中学生の志願者数が伸び悩んでいる。「地域とともにある学校」として、地域とかかわり地域と協働しながら地域活性化に貢献する人材育成をすすめるとともに、生徒の学力向上を図り、国公立大学等への進学実績を伸ばしていくことにより、地域から信頼される学校づくりに努めていく。

6 次年度への課題・改善方策

- ・次年度は普通科の学科改編から4年目となるので、これまでの3年間の取組を精査して、2巡目のスタートとして探究活動を柱に教育活動をさらに充実させ、学校の魅力化に取り組みたい。
- ・探究活動の更なる充実には、菊池市高校魅力化コーディネーターの存在は不可欠である。菊池市の協力と支援を得ながら、菊池市や地元企業と連携を深め、探究学習を充実させる。
- ・探究活動では、生徒の主体的な取組や態度を育成する絶好の機会である。生徒の興味や関心を高め、自身の進路に結びつく取組や活動につなげる。
- ・本校は本年度、文部科学省からDXハイスクールの指定を受けている。その要素を探究活動の中に取り入れ、デジタル技術やデータサイエンスの視点を取り入れた探究活動に取り組む。また、理系人材の育成にも取り組む。
- ・普通科未来探究コースについては、大学進学を目指すコースとしての位置づけを明確に打ち出し、外部に発信しイメージを定着させるとともに、その生徒の大学進学への意識を喚起するとともに、職員の意識改革や指導力向上のための職員研修を実施する。また、菊池市公営塾と連携し、大学進学に向けた講演や講座を進路指導部が中心となって企画することにより、実施する。
- ・生徒指導に関しては課題が多い。現在「規則を守らせる生徒指導」が限界にきている。校則の見直しを含め指導項目を整理するとともに、指導の基準を明確にし、職員間で共通理解をもって同じ基準で指導にあたる。また、生徒支援的な観点も取り入れた生徒指導の在り方についても、スクールソーシャルワーカーや専門家の助言を受けながら、全職員で検討する場を設けるとともに、研修等も実施する。さらに、家庭と連携した生徒の指導や支援の方法を検討する。
- ・働き方改革については、引き続き業務の改善や精選を進めるとともに、職員の業務の効率化や担当業務の平準化を図って、時間外の従事時間の縮減に取り組む。